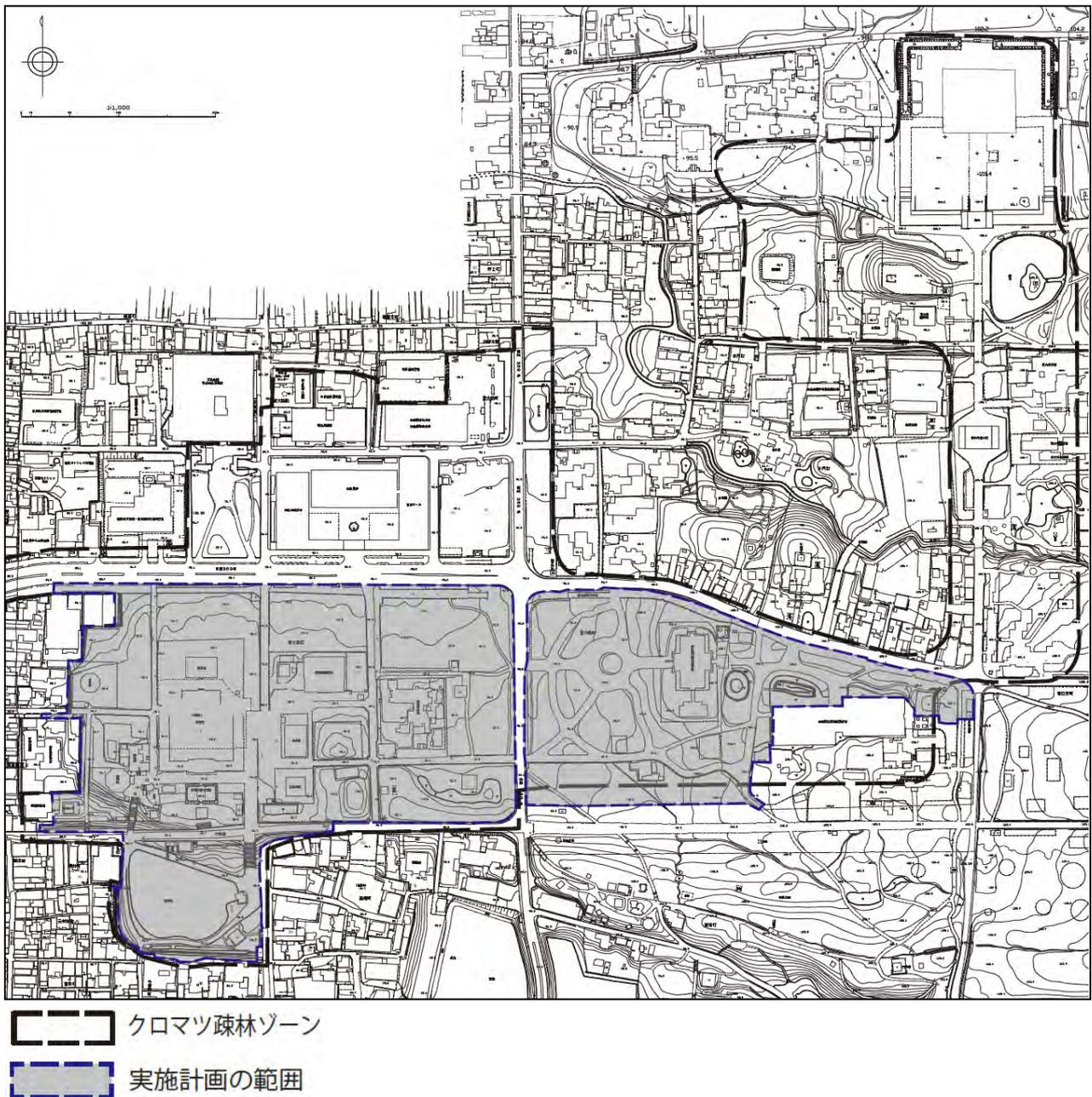


## 1-2 クロマツ疎林ゾーン南西部実施計画

### (1) 計画範囲

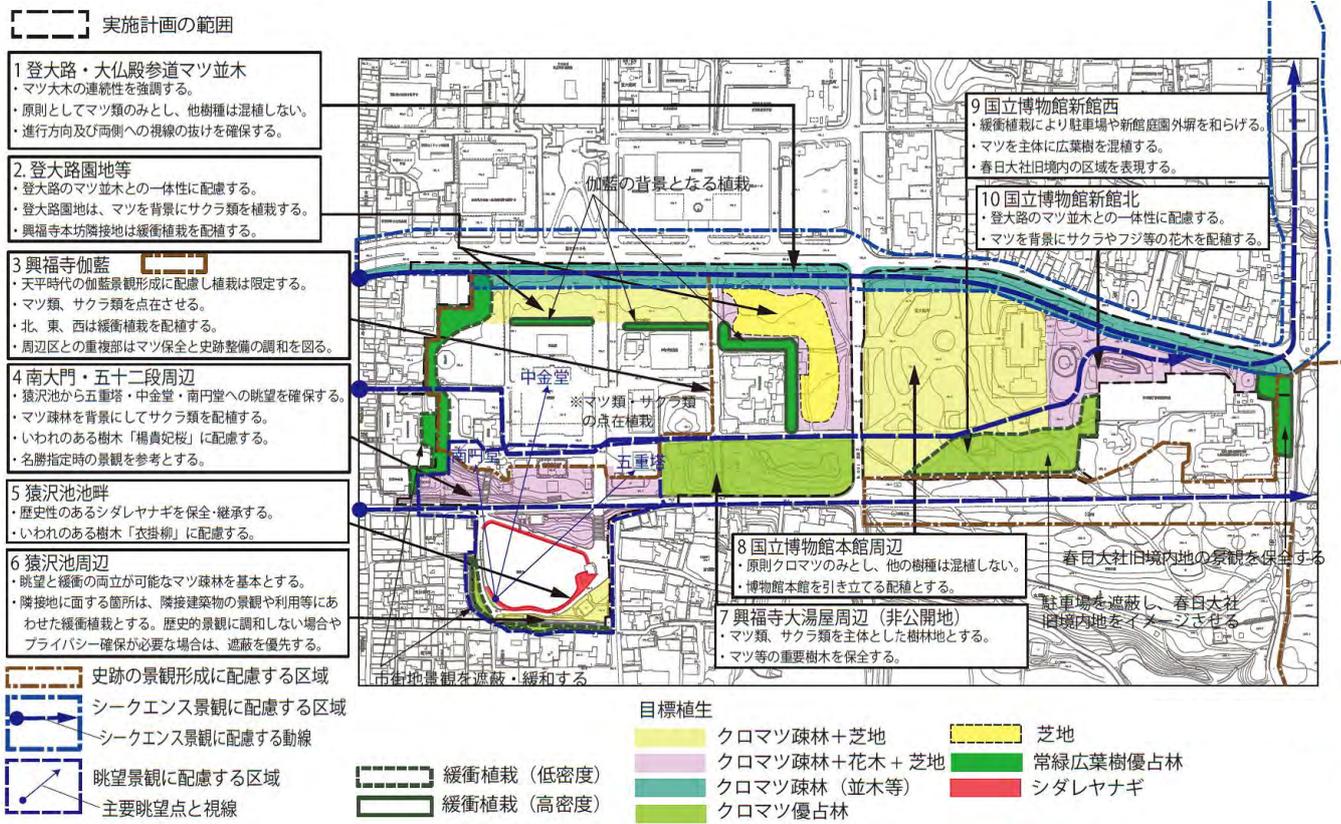
本実施計画の範囲は、以下のとおりである。



図：計画範囲

## (2) 上位計画の要点

クロマツ疎林ゾーン植栽計画により、実施計画の計画範囲について設定された計画目標は、下図のとおりである。



図：計画目標（抜粋）

## (3) 整備方針

整備方針は、前項に記載したクロマツ疎林ゾーン植栽計画で設定された計画目標をもとにして、各所毎に評価指標を設定し、これを実現するため必要なものを整備内容とする。

①登大路・大仏殿参道マツ並木(登大路部分)

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マツ大木の連続性を強調する。</li> <li>・原則としてマツ類のみとし、他樹種は混植しない。</li> <li>・進行方向及び両側への視線の抜けを確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロマツ疎林(並木)</li> </ul>

●整備のための評価指標

- ・マツ類が健全に生育・更新していること。
- ・いずれの区間においてもマツ並木が途切れないこと。
- ・ナンキンハゼを除き、大正～昭和(戦前)期から存在する樹木が保全されていること。
- ・西側区間では、マツ並木の間から若草山や隣接する芝地が望めること。
- ・東側区間では、マツ並木の間から国立博物館本館や隣接する芝地が望めること。

●整備方針

- ・眺望や見通しの支障となる常緑・落葉広葉樹は伐採する。
- ・クロマツ(できる限り抵抗性マツとする。以下この表記省略)を補植する。

●景観目標像：登大路のマツ並木 (整備方針：広葉樹等の伐採、マツ補植)



現況景観



目標景観

## ②登大路園地等

### ●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登大路のマツ並木との一体性に配慮する。</li> <li>・登大路園地はマツを背景にサクラ類を植栽する。</li> <li>・興福寺本坊隣接地は緩衝植栽を配植する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芝地</li> <li>・クロマツ疎林＋芝地</li> <li>・クロマツ疎林＋芝地＋花木</li> </ul>

### ●整備のための評価指標

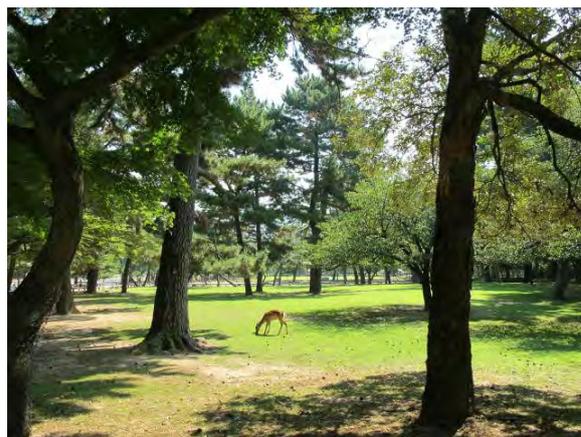
- ・クロマツ及びサクラが健全に生育・更新していること。
- ・いずれの区域においてもマツ疎林に覆われていること。
- ・ナンキンハゼを除き、大正～昭和(戦前)期から存在する樹木は保全されていること。
- ・連続する芝地の見通しが確保されていること。

### ●整備方針

- ・眺望や見通しの支障となる常緑・落葉広葉樹やスギ等は伐採する。
- ・サクラ類を被圧している常緑・落葉広葉樹やスギ等は伐採する。
- ・クロマツを補植する。
- ・サクラ類の密度調整や補植を行う。



マツ林を背景にサクラと芝地が展開する。



マツの疎林は見通しが良い。



常緑広葉樹が生長し見通しを阻害している。



伽藍の背景となる植栽。

### ③興福寺伽藍

#### ●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・天平時代の伽藍景観形成に配慮し植栽は限定する。</li> <li>・マツ類、サクラ類を点在させる。</li> <li>・北、東、西は緩衝植栽を配植する。</li> <li>・周辺区との重複部はマツ保全と史跡整備の調和を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽は限定 (マツ類、サクラ類点在)</li> <li>・常緑広葉樹優占林</li> </ul>

#### ●整備のための評価指標

- ・マツやサクラ等の既存樹木が保全されていること。
- ・伽藍内外の空間の区別が理解でき、かつ内外の連続感があること。

#### ●整備方針

- ・伽藍整備や樹木更新時期を見越して、クロマツやサクラ類を補植する。



伽藍の広がり感と背景のマツが特徴。



要所にあるマツが歴史文化性を感じさせる。



登大路園地と調和した植栽。(右側登大路園地)

#### ④南大門・五十二段周辺

##### ●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・猿沢池から五重塔・中金堂・南円堂への眺望を確保する。</li> <li>・マツ疎林を背景にしてサクラ類を配植する。</li> <li>・いわれのある樹木「楊貴妃桜」に配慮する。</li> <li>・名勝指定時の景観を参考とする。</li> </ul>	クロマツ疎林＋芝地＋花木

##### ●整備のための評価指標

- ・クロマツ及びサクラが健全に生育・更新していること。
- ・猿沢池池畔の眺望点から五重塔の上三層が望めること。
- ・猿沢池池畔の眺望点から南円堂、中金堂の屋根が望めること。

##### ●整備方針

- ・眺望の支障となる常緑・落葉広葉樹等は伐採する。
- ・ナンキンハゼは伐採する。
- ・眺望の支障となるマツ類は、透かし剪定を行う。
- ・更新樹木として、クロマツ、サクラ類を植栽する。



強剪定樹木が多い。背景に中金堂・南円堂。



生長した樹木で五重塔が見えない。



五十二段付近はマツが特徴。



三条通にはナンキンハゼが多い。

## ⑤猿沢池池畔

### ●計画目標

計画目標	目標植生
・歴史性のあるシダレヤナギを保全・継承する。 ・いわれのある樹木「衣掛柳」に配慮する。	シダレヤナギ

### ●整備のための評価指標

- ・シダレヤナギが健全に生育・更新していること。

### ●整備方針

- ・枯損したシダレヤナギを植栽する。
- ・ナラタケモドキ病対策を実施する。
- ・生育環境改善のため、植栽帯の拡幅、土壌改良等を実施する。



枯損の少ない頃の景観（2010頃）



大半が枯損した現在の景観



眺望の視点場。利用者は多い。



シダレヤナギが枯れた現状。

●景観目標像：④南大門・五十二段周辺 + ⑤猿沢池池畔



現況景観



目標景観（当面整備）



目標景観（将来）

- ・南大門・五十二段周辺の計画目標には、「名勝指定時の景観を参考にする」とされている。名勝指定時の景観は、写真等から、当時五重塔から南円堂まで五十二段西の斜面地と興福寺境内には樹高20メートル前後のマツが立ち並び、景色の骨格が形成されていたことが分かる。（次頁の資料参照）
- ・現在の植栽は、常緑と落葉の広葉樹の大木が優占しており、マツの植栽は一部の範囲に限られている。このため、短期間で名勝指定時の景観を目標に整備すると、マツが十分な大きさになるまで数十年の期間がかかり、その間に貧相な景観になる恐れがある。
- ・そこで、景観目標像は「当面整備」と「将来」の2段階とし、当面行う植栽整備段階の景観目標と、数十年後に期待される景観目標像を示す。

●参考資料



猿沢池池畔より五重塔付近を望む  
出典：「奈良名勝写真帖」奈良市役所 大正4年  
中腹にマツ、法面裾にサクラ。五重塔は4層見える。



絵葉書 猿沢池 昭和8～昭和20（葉書様式より推定）  
マツやシダレヤナギが生長。五重塔は3層見える。



魚佐旅館より見たる猿沢池のパノラマ 昭和10～昭和20  
五重塔から南円堂まで、五十二段西の斜面地と興福寺境内にマツが立ち並び、景色の骨格が形成されている。

## ⑥猿沢池周辺

### ●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・眺望と緩衝の両立が可能なマツ疎林を基本とする。</li> <li>・隣接地に面する箇所は、隣接建築物の景観や利用等に合わせた緩衝植栽とする。歴史的景観に調和しない場合やプライバシー確保が必要な場合は、遮蔽を優先する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロマツ疎林 + 芝地</li> <li>・クロマツ優占林</li> </ul>

### ●整備のための評価指標

- ・池周り全体としてマツが美しく見えていること。
- ・隣接する近代的建築物が植栽で隠れていること。または、歴史的な景観に配慮した建築物と調和した植栽であること。
- ・池周りの歩行空間や休憩空間の快適性や景観を高める植栽であること。
- ・隣接地のニーズ(建築物からの眺望確保、プライバシー確保等)との整合性があること。

### ●整備方針

- ・隣接地に直面しない植栽地は、常緑・落葉広葉樹等を伐採し、マツ類等の更新植栽を行う。
- ・隣接地に直面する植栽地は、隣接地の開発(今後の整備は景観規制等により歴史的景観に調和した建築物となる)に対応して、常緑・落葉広葉樹等を択伐し、マツ類や花木等の更新植栽を行う。
- ・大正～昭和(戦前)期から存在する樹木で、良好な樹形のもの及び樹形回復可能なものは保全する。



現況植栽は隣接施設を遮蔽している。



広葉樹が多く、大半は強剪定を受けている。



低層建築に接する部分。



中層建築に接する部分。隣接地の一部は更地。

⑦興福寺大湯屋周辺(非公開地)

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マツ類、サクラ類を主体とした樹林地とする。</li> <li>・マツ等の重要樹木を保全する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロマツ優占林</li> </ul>

●整備のための評価指標

- ・クロマツ及びサクラが健全に生育・更新していること。

●整備方針

- ・現状で整備は必要ない。



三条通沿いの植栽



南北に抜ける道路。サクラ類が多い。



本坊前の園路。両側からマツが被る。



大湯屋付近。マツが多い。

### ⑧国立博物館本館周辺

#### ●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則クロマツのみとし、他の樹種は混植しない。</li> <li>・博物館本館を引き立てる配植とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロマツ疎林＋芝地</li> </ul>

#### ●整備のための評価指標

- ・クロマツが健全に生育・更新していること。
- ・区域全体がマツ疎林に覆われていること。
- ・博物館構内及び隣接地から、マツ林の間から本館建物が望めること。
- ・正面円形植栽地は、クロマツ1本植栽されていること。

#### ●整備方針

- ・クロマツを補植する。
- ・見通しの支障となる常緑・落葉広葉樹等は伐採する。
- ・ナンキンハゼは伐採する。

#### ●景観目標像：国立博物館本館周辺（整備方針：マツ補植・一部伐採）



現況景観



景観目標

## ⑨国立博物館新館西

### ●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"><li>・緩衝植栽により駐車場や新館庭園外堀を和らげる。</li><li>・マツを主体に広葉樹を混植する。</li><li>・春日大社旧境内の区域を表現する。</li></ul>	クロマツ優占林

### ●整備のための評価指標

- ・マツ類や広葉樹等の樹木が健全に生育・更新していること。
- ・隣接するマツ疎林との連続感があること。
- ・植栽によって主要動線から駐車場や庭園外堀が直接見えないこと。

### ●整備方針

- ・クロマツ及び広葉樹を補植する。
- ・ナンキンハゼは伐採する。



主要動線から駐車場がそのまま見える。



駐車場の状況。



背景には春日大社参道の樹林が見える。

⑩国立博物館新館北

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登大路のマツ並木との一体性に配慮する。</li> <li>・マツを背景にサクラやフジ等の花木を配植する。</li> </ul>	クロマツ疎林＋芝地＋花木

●整備のための評価指標

- ・マツ類、サクラ類、フジ等の樹木が健全に生育・更新していること。
- ・隣接する登大路のマツ並木との一体性があること。
- ・構内のサクラと氷室神社のサクラとの一体性があること。
- ・本館及び新館の建物・外構との調和がとれていること

●整備方針

- ・クロマツ及びサクラ類を補植する。
- ・ナンキンハゼ及びイチイガシ等の常緑広葉樹は伐採する。



新館エントランス付近。マツ並木が特徴。



新館前の散策園路。花木植栽が見られる。



北側歩道にはナンキンハゼが混在する。



北側園路部分。道路改修直後で樹木がない。

#### (4) 整備概要

前項の整備方針を受けて、計画範囲の樹木調査結果をもとに①伐採候補樹木、②伐採しない現況樹木、③補植する樹木を整理し、整備概要をまとめる。

##### ①伐採候補樹木

前項の整備方針を受けて、樹木調査範囲について伐採候補樹木を抽出して下図にまとめた。伐採候補樹木の樹種は、景観に支障となる常緑広葉樹、落葉広葉樹、ナンキンハゼ、スギである。抽出した樹木のうち、建築物や工作物を遮蔽するために植栽されたものや戦前より植栽されていた樹木については保全することし、候補から外した。

伐採候補樹木の本数

登大路マツ並木、登大路園地等	56本
南大門・五十二段周辺	36本
猿沢池周辺	61本
国立博物館・北園路	52本
計	205本

##### ②伐採しない現況樹木

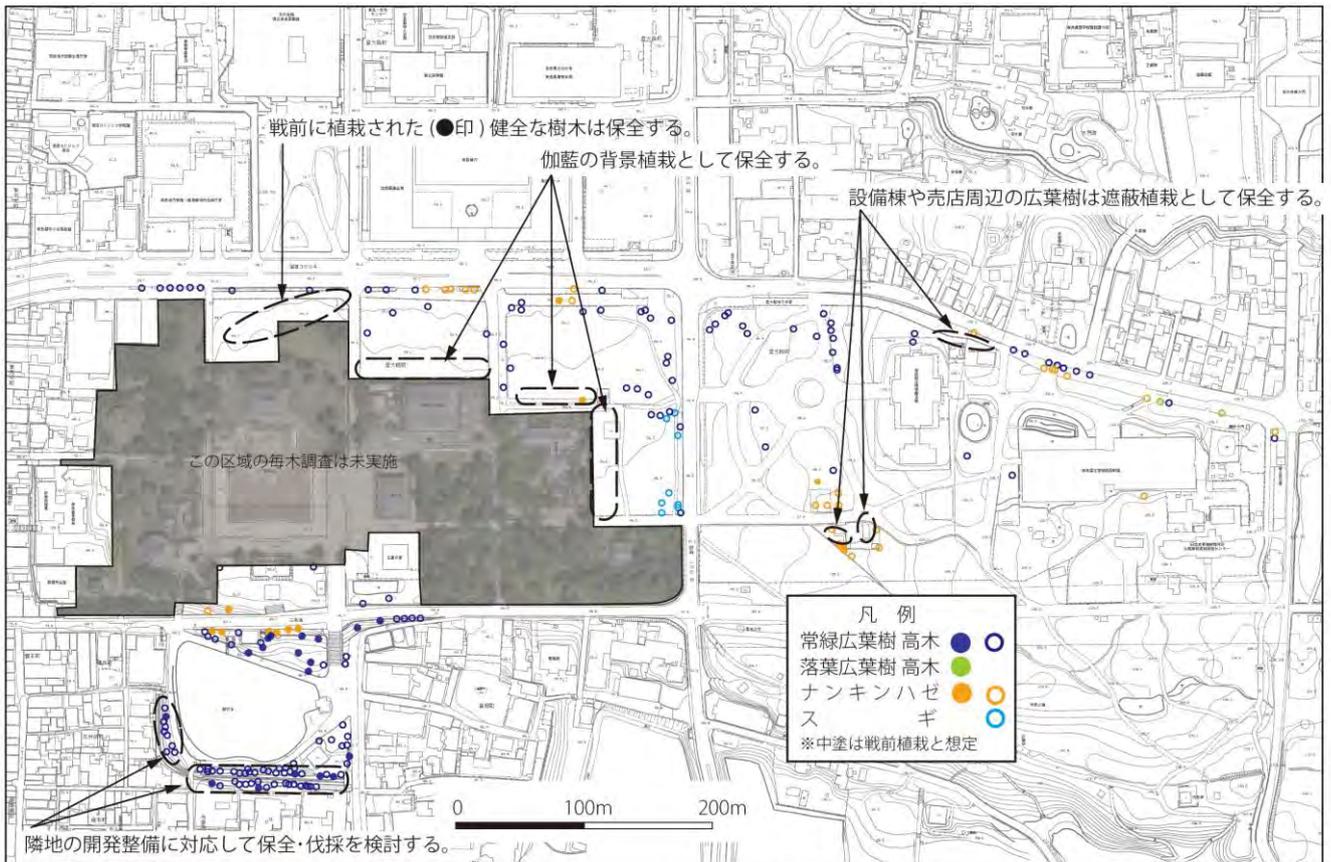
現況樹木から伐採候補樹木を除いたものを、下図にまとめた。

##### ③補植する樹木

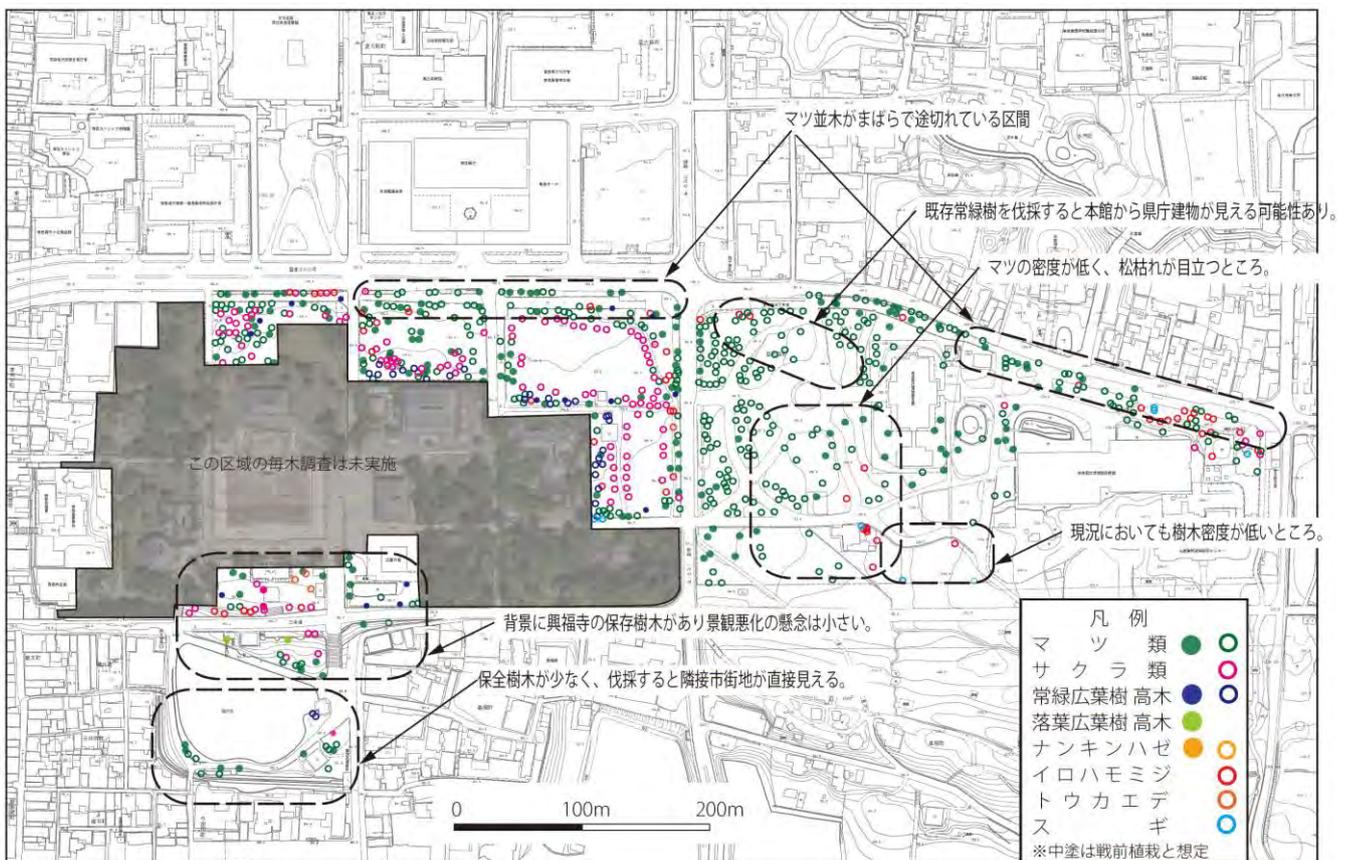
補植は、伐採樹木が決定した後に、植栽地の密度や景観を考慮して植栽位置を検討する。ここでは、以下の考え方で補植本数の概数を想定しておく。

補植本数(成木・概数)

伐採本数	$205本 \times 70\% = 147本$
近年枯死した本数	登大路園地マツ類 56本
	国立博物館マツ類 43本
計	246本



図：伐採候補樹木



図：伐採しない樹木